

滝川市交通安全に関する意識調査結果

この意識調査は、第9次滝川市交通安全計画策定に向けて、滝川市交通安全運動推進協議会に属する団体の役員、会員（職員）等を対象に実施したものです。

- 調査期間 平成28年 9月27日（火曜日） 調査依頼発送
平成28年10月12日（水曜日） 提出締切日
- 調査対象 35団体 233人
- 調査方法 郵送等によるアンケート調査

- 回収状況 標 本 数 233
有効回収数（率） 154（66.1%）※前回59.4%



平成28年10月

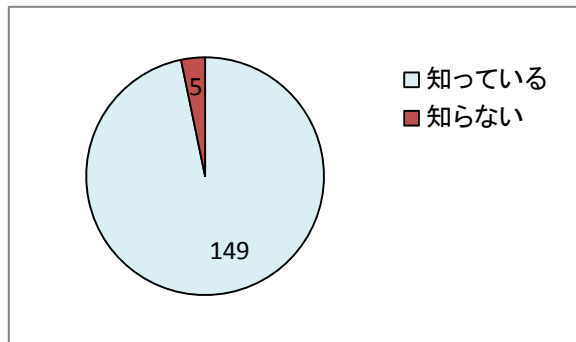
滝 川 市

滝川市交通安全に関する意識調査集計

1 滝川市では4期（春夏秋冬）の交通安全運動を実施していますが、知っていましたか。

	件数	割合
知っている	149	96.8
知らない	5	3.2
計	154	100.0

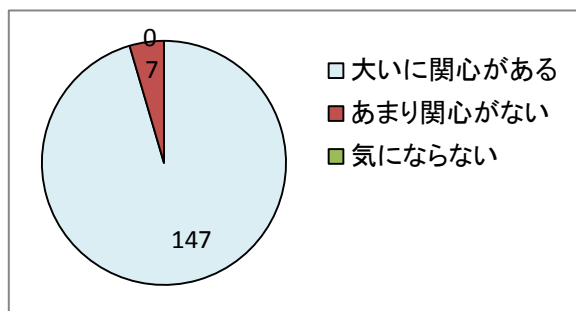
長年継続的に実施されている取組であり、多くの方に認知されていることがうかがえる。（※前回（H23）調査時「知っている」83.7%）



2 テレビ、ラジオ、新聞等で交通事故の報道がされていますが、関心がありますか。

	件数	割合
大いに関心がある	147	95.5
あまり関心がない	7	4.5
気にならない	0	0.0
計	154	100.0

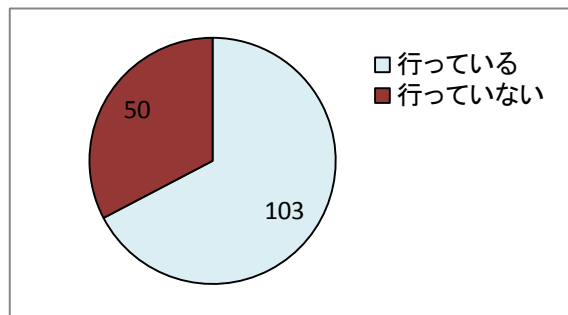
交通事故報道については、多くの方の関心があることがうかがえる。（※前回調査時「大いに関心がある」82.1%）



3 あなたの会社（団体・家庭）では、交通安全教育や意識高揚のため何か行っていますか。

	件数	割合
行っている	103	67.3
行っていない	50	32.7
計	153	100.0

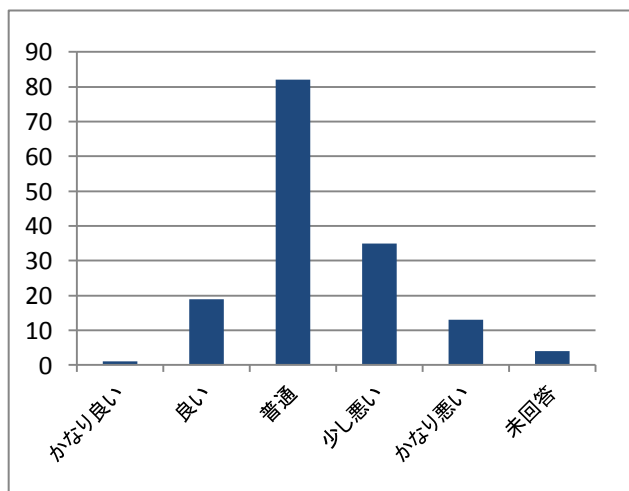
3分の2を超える会社（団体・家庭）において何らかの教育等を行っている。
◆記述内容は別紙1



4 市内で見かける自動車運転者の交通マナーについてどう思いますか。

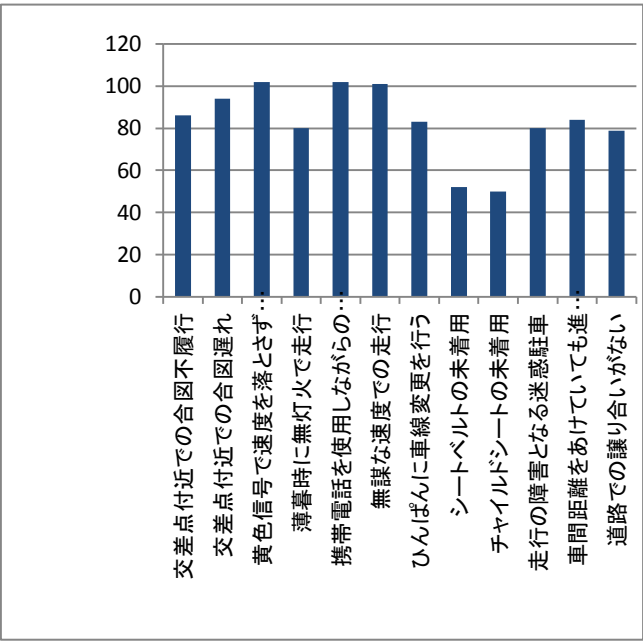
	件数	割合
かなり良い	1	0.6
良い	19	12.3
普通	82	53.2
少し悪い	35	22.7
かなり悪い	13	8.4
未回答	4	2.6
計	154	100.0

「少し悪い」「かなり悪い」が31.1%を占めているが、前回調査時（42.3%）より10%以上減っており、改善傾向にあることがうかがわれる。
◆記述内容は別紙2



5 特に目につく交通マナーの悪さは次のどれですか。（複数回答可）

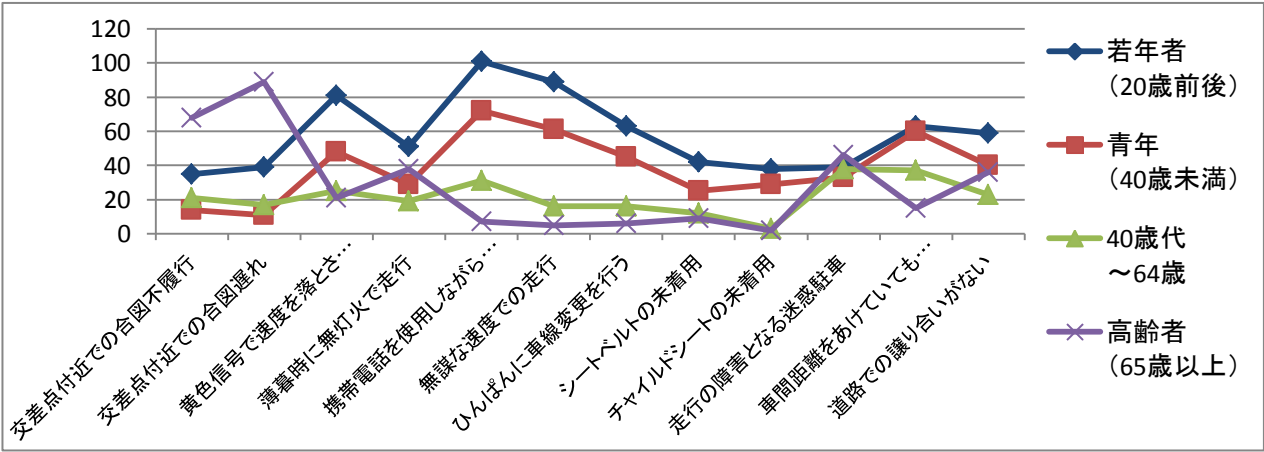
	件数	割合
交差点付近での合図不履行	86	8.7
交差点付近での合図遅れ	94	9.5
黄色信号で速度を落とさずに交差点に進入する	102	10.3
薄暮時に無灯火で走行	80	8.1
携帯電話を使用しながらの走行（右折・左折時を含む。）	102	10.3
無謀な速度での走行	101	10.2
ひんぱんに車線変更を行う	83	8.4
シートベルトの未着用	52	5.2
チャイルドシートの未着用	50	5.0
走行の障害となる迷惑駐車	80	8.1
車間距離をあけていても進入してくる	84	8.5
道路での譲り合いがない	79	8.0
計	993	100.0



◎どの世代に見られますか。（複数回答可）

	若年者 (20歳前後)	青年 (40歳未満)	40歳代 ～64歳	高齢者 (65歳以上)	計
交差点付近での合図不履行	35	14	21	68	138
交差点付近での合図遅れ	39	11	17	89	156
黄色信号で速度を落とさずに交差点に進入する	81	48	25	21	175
薄暮時に無灯火で走行	51	29	19	38	137
携帯電話を使用しながらの走行（右折・左折時を含む。）	101	72	31	7	211
無謀な速度での走行	89	61	16	5	171
ひんぱんに車線変更を行う	63	45	16	6	130
シートベルトの未着用	42	25	12	9	88
チャイルドシートの未着用	38	29	3	2	72
走行の障害となる迷惑駐車	39	33	38	46	156
車間距離をあけていても進入してくる	63	60	37	15	175
道路での譲り合いがない	59	40	23	36	158
計	700	467	258	342	1,767

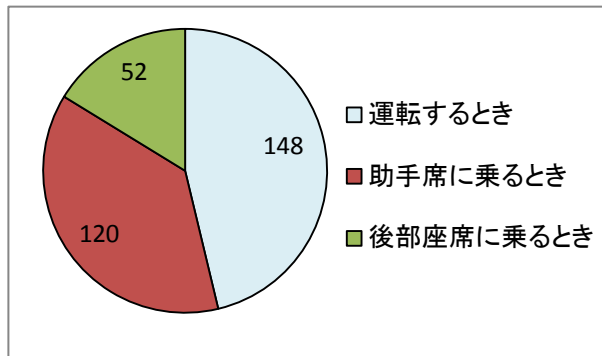
高齢者の交差点付近での合図の不履行や遅れなど加齢による影響を感じさせるもの、若年層の無謀な速度での走行、黄色信号での強引な交差点進入に加え、携帯電話使用中の走行が目についていることがうかがえる。性別の回答は求めなかったが、女性に多く見られるとの記載もあった。



6 自家用車でシートベルトをするのは、どのようなときですか。（複数回答可）

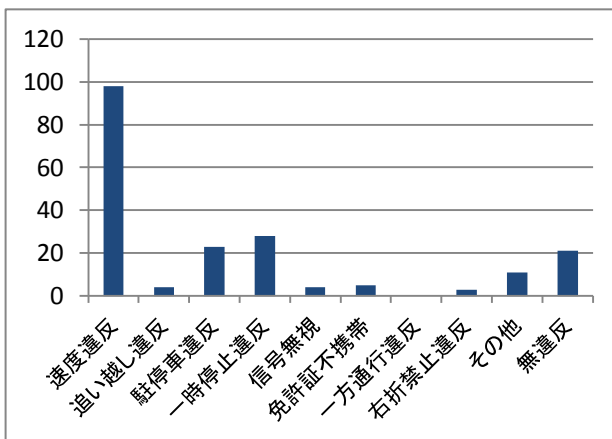
	件数	割合
運転するとき	148	46.3
助手席に乗るとき	120	37.5
後部座席に乗るとき	52	16.3
計	320	100.0

回答者は免許保有者が9割を超えていることから、「運転するとき」と回答した者が多い結果となったと思われる。



7 交通違反をしたことがありますか。それはどのような違反でしたか。（複数回答可）

	件数	割合
速度違反	98	55.7
追い越し違反	4	2.3
駐停車違反	23	13.1
一時停止違反	28	15.9
信号無視	4	2.3
免許証不携帯	5	2.8
一方通行違反	0	0.0
右折禁止違反	3	1.7
その他	11	6.3
無違反	21	13.6
計	176	100.0

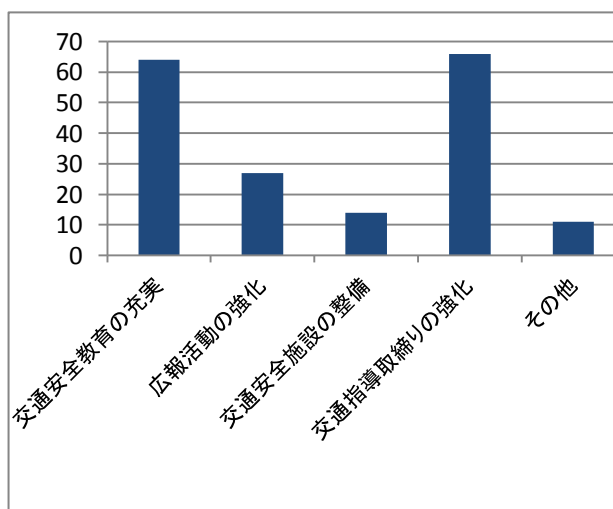


速度違反が5割を占め、次に一時停止違反が15.9%、駐停車違反が13.1%であった。
また、無違反者は、13.6%であった。

8 どのようにしたら自動車運転者の交通マナーが良くなると思いますか。（複数回答可）

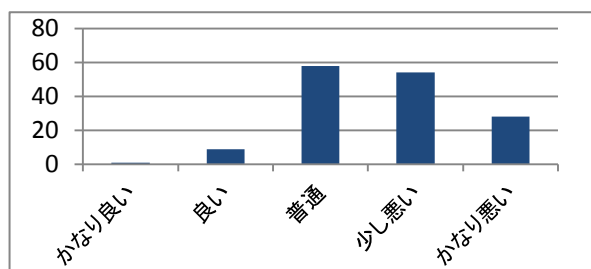
	件数	割合
交通安全教育の充実	64	35.2
広報活動の強化	27	14.8
交通安全施設の整備	14	7.7
交通指導取締りの強化	66	36.3
その他	11	6.0
計	182	100.0

交通指導取締りの強化が36.3%、交通安全教育の充実が35.2%を占めており、取締りと教育で71.5%を占めている。



9 自転車の交通マナーについてどう思いますか。

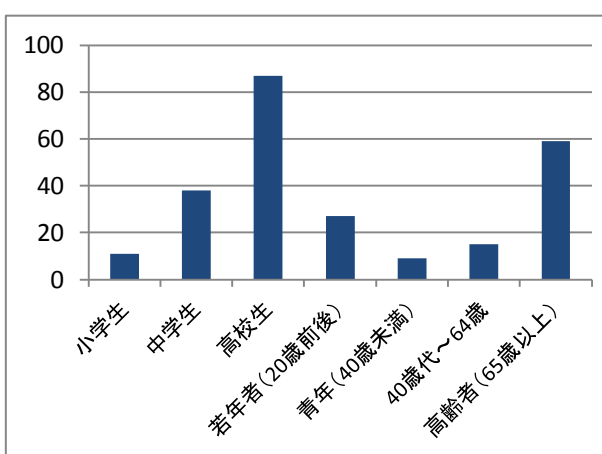
	件数	割合
かなり良い	1	0.7
良い	9	6.0
普通	58	38.7
少し悪い	54	36.0
かなり悪い	28	18.7
計	150	100.0



「少し悪い」が36.0%、「かなり悪い」が18.7%で、合わせると54.7%と、5割を超えており、前回調査時(69.9%)より15%以上減少しているものの依然として自転車の交通マナーの啓蒙が必要なのがうかがえる。

10 自転車の交通マナーの悪いのはどの年齢層が目につきますか。（複数回答可）

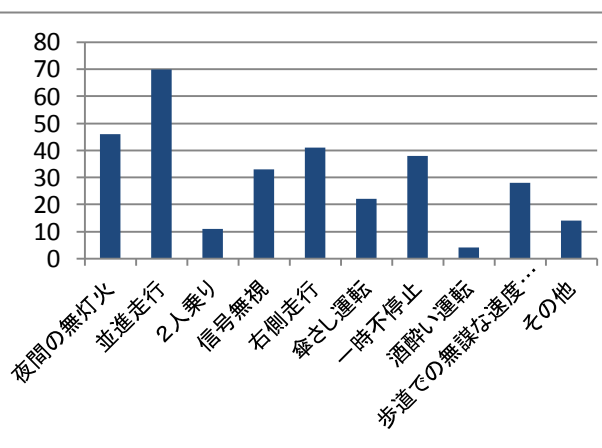
	件数	割合
小学生	11	4.5
中学生	38	15.4
高校生	87	35.4
若年者(20歳前後)	27	11.0
青年(40歳未満)	9	3.7
40歳代~64歳	15	6.1
高齢者(65歳以上)	59	24.0
計	246	100.0



高校生が35.4%、高齢者が24%を占めており、特に高校生へのルール啓蒙が必要であることがうかがえる。また、高齢者にも啓蒙が必要である。

11 目につく自転車の交通マナーの悪さは次のどれですか。（複数回答可）

	件数	割合
夜間の無灯火	46	15.0
並進走行	70	22.8
2人乗り	11	3.6
信号無視	33	10.7
右側走行	41	13.4
傘さし運転	22	7.2
一時不停止	38	12.4
酒酔い運転	4	1.3
歩道での無謀な速度での走行	28	9.1
その他	14	4.6
計	307	100.0

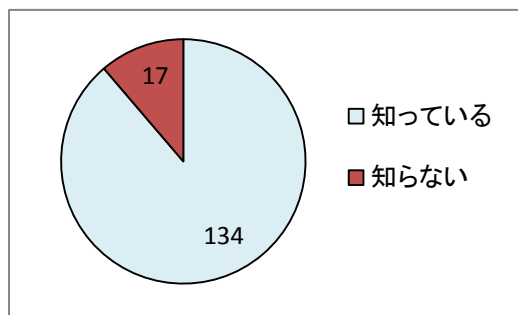


「並進走行」「夜間の無灯火」「右側通行」「一時不停止」で6割を超えている。特に「並進走行」が22.8%を占めている。

12 自転車が軽車両であることを知っていましたか。

	件数	割合
知っている	134	88.7
知らない	17	11.3
計	151	100.0

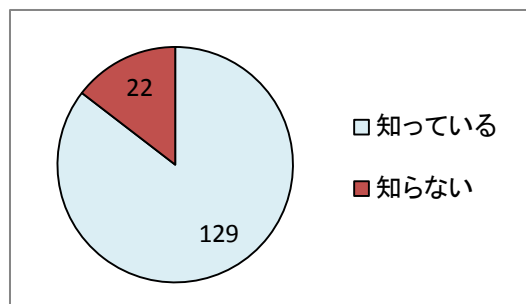
88.7%の方が自転車が軽車両であることを知っている。



13 自転車運転者の悪質違反者には交通切符が適用されることを知っていましたか。

	件数	割合
知っている	129	85.4
知らない	22	14.6
計	151	100.0

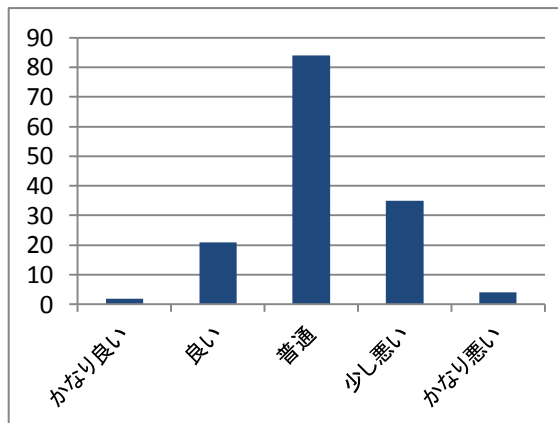
85.4%の方が交通切符適用を知っている。
(※前回調査時「知っている」74%)



14 歩行者の交通マナーについてどう思いますか。

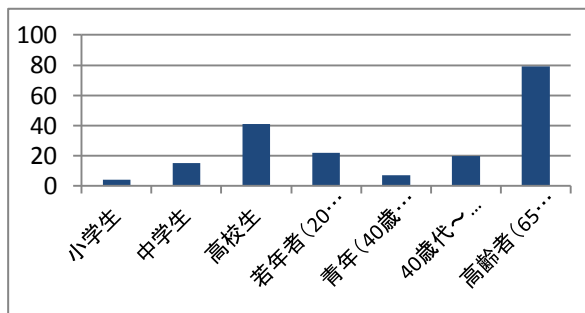
	件数	割合
かなり良い	2	1.4
良い	21	14.4
普通	84	57.5
少し悪い	35	24.0
かなり悪い	4	2.7
計	146	100.0

「少し悪い」「かなり悪い」が26.7%と、
前回調査時(37.2%)より減っているが、
良いと感じている方が15%程度であ
り、まだまだ歩行者のマナーの悪さが目
につくことがうかがえる。



15 歩行者の交通マナーの悪いのはどの年齢層が目につきますか。(複数回答可)

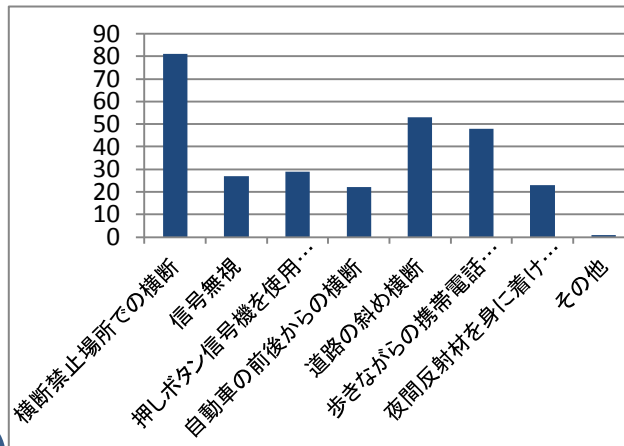
	件数	割合
小学生	4	2.1
中学生	15	8.0
高校生	41	21.8
若年者(20歳前後)	22	11.7
青年(40歳未満)	7	3.7
40歳代~64歳	20	10.6
高齢者(65歳以上)	79	42.0
計	188	100.0



歩行の機会が多いこともあると思うが、高齢者が最も多く42%を占めている。
他の年齢層でも目につくが、小学生・中学生はマナーが良いことがうかがえる。

16 目につく歩行者の交通マナーの悪さは次のどれですか。（複数回答可）

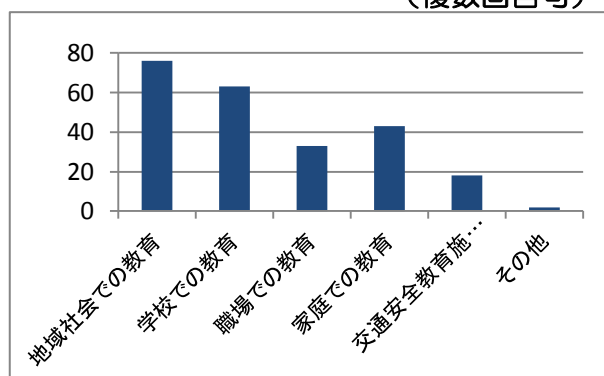
	件数	割合
横断禁止場所での横断	81	28.5
信号無視	27	9.5
押しボタン信号機を使用せずに横断	29	10.2
自動車の前後からの横断	22	7.7
道路の斜め横断	53	18.7
歩きながらの携帯電話使用	48	16.9
夜間反射材を身に着けずに歩行	23	8.1
その他	1	0.4
計	284	100.0



「横断禁止場所での横断」「道路の斜め横断」が5割弱を占め、道路横断のマナーの悪さが目につくことがうかがえる。また、「歩きながらの携帯電話使用」が16.9%と、前回調査時(12.1%)より増加している。

17 交通安全教育を効果的に推進するには、どのような教育が効果的と考えますか。（複数回答可）

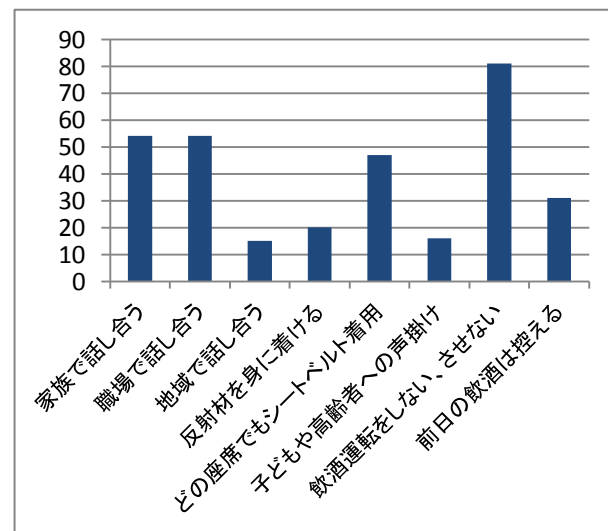
	件数	割合
地域社会での教育	76	32.3
学校での教育	63	26.8
職場での教育	33	14.0
家庭での教育	43	18.3
交通安全教育施設での教育	18	7.7
その他	2	0.9
計	235	100.0



地域社会・学校での教育が59.1%を占めている。次いで家庭・職場の順となっている。

18 交通安全に関する取組としてどのようなことを実施していますか。（複数回答可）

	件数	割合
家族で話し合う	54	17.0
職場で話し合う	54	17.0
地域で話し合う	15	4.7
反射材を身に着ける	20	6.3
どの座席でもシートベルト着用	47	14.8
子どもや高齢者への声掛け	16	5.0
飲酒運転をしない、させない	81	25.5
前日の飲酒は控える	31	9.7
計	318	100.0



「飲酒運転をしない、させない」が25.5%を占めており、昨年の砂川の事故や道条例の制定の影響を受け、飲酒運転に対する意識が高まっていることがうかがえる。

19 日頃、交通安全についてお気付きの点がありましたらご記入願います。

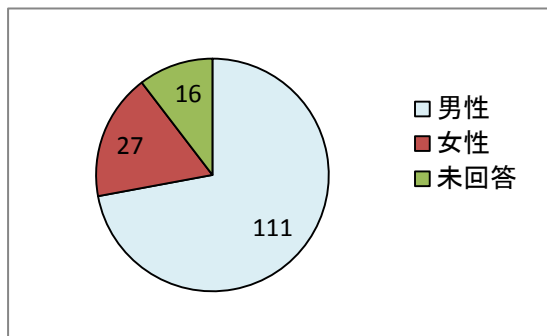
◆記述内容は別紙3

20 あなたのプロフィールについてお尋ねします。

(1) あなたの性別は

	件数	割合
男性	111	72.1
女性	27	17.5
未回答	16	10.4
計	154	100.0

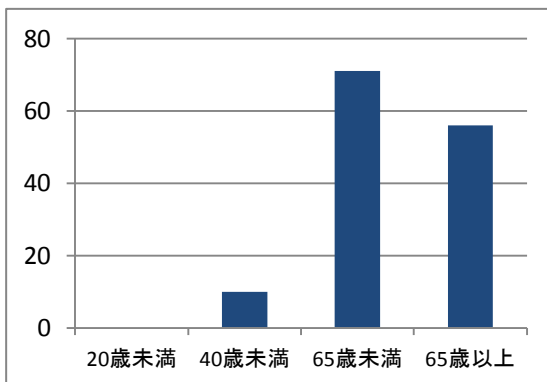
男性が72.1%を占めていた。



(2) あなたの年齢は

	件数	割合
20歳未満	0	0.0
40歳未満	10	7.3
65歳未満	71	51.8
65歳以上	56	40.9
計	137	100.0

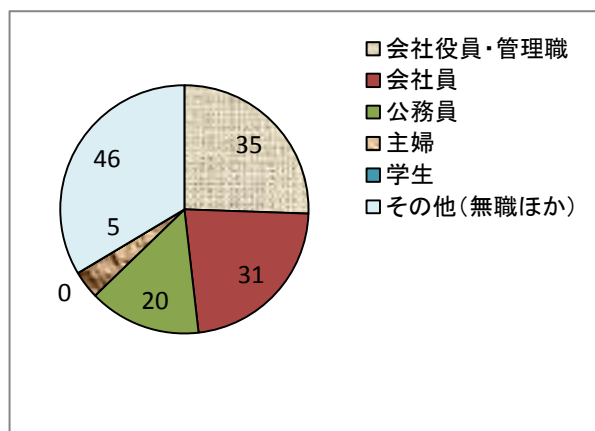
40歳～65歳未満が51.8%、65歳以上が40.9%を占めていた。



(3) あなたの職業は

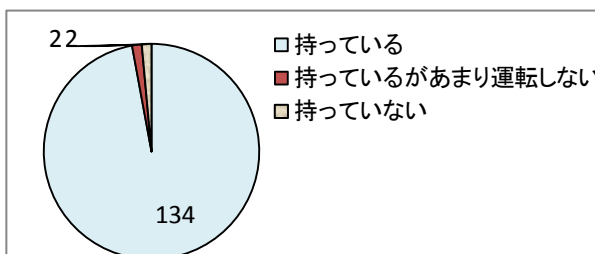
	件数	割合
会社役員・管理職	35	25.5
会社員	31	22.6
公務員	20	14.6
主婦	5	3.6
学生	0	0.0
その他（無職ほか）	46	33.6
計	137	100.0

会社員・公務員が37.2%、会社役員・管理職が25.5%を占めていた。



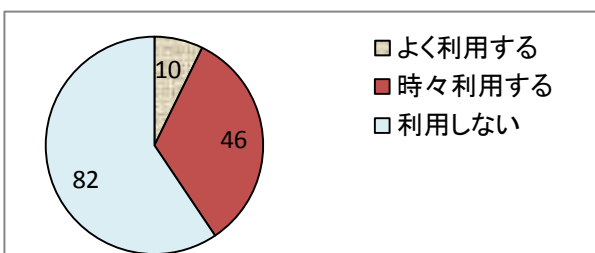
(4) あなたは運転免許を

	件数	割合
持っている	134	97.1
持っているがあまり運転しない	2	1.4
持っていない	2	1.4
計	138	100.0



(5) 自転車は

	件数	割合
よく利用する	10	7.2
時々利用する	46	33.3
利用しない	82	59.4
計	138	100.0



3 交通安全教育や意識高揚のためにどのようなことを行っていますか。

記 述 内 容	
全市的な活動	「旗の波」運動参加 街頭啓発運動への参加
職 域	朝礼時に安全・安心運転の呼び掛けや注意喚起を実施 毎月（週）1回安全会議。安全大会で啓蒙し、ビデオ・DVDで解説 4期の交通安全運動の初日に職場の人に対し安全・安心運動の注意喚起 職場会議で交通安全（特に飲酒運転撲滅）について周知に努めている。 会議等での訓示・訓話、交通安全講話 注意喚起。交通安全5則の徹底 ニュースを例に取って学習会・法規学習 交通違反防止研修会 定期の教育 飲酒運転・交通違反撲滅宣言署名 飲酒運転根絶道民宣言を携帯できるよう小さくして配布 「交通安全5則＋1」の宣言と職場内掲示 呼び掛け合い、違反をしない約束に全員が署名し掲示 交通マナー向上のためのポスターの掲示 職場の掲示板に表示し、啓発を図るとともに全職員に口頭による周知 道警からの交通安全情報や会社の車両事故報告を会社員にメール配信 警察本部交通企画課発行の交通安全情報を社内イントラで配布。 各自に交通関係各団体からの配布物を掲示 ドライバーズクラブ（マイカークラブ）を結成し交通安全の意識を高揚 セーフティラリーへの参加 1年間の安全運転ラリーを役職員全員で実施。 全車ドライブレコーダーを装備した。 車両管理規程がありルールが定められている。 飲酒防止ステッカー 冬期の交通安全運動、休暇前教育・機会教育等 外勤時に「交通安全」と書いたカードを持ってフロントガラスに掲示
地 域・団 体	町内複数箇所に町内会で作成した交通安全旗を設置 町内会として年4回立哨や旗の波に参加 毎月初日の交通安全街頭啓発 月3回地域内巡回（青パト車）。防犯を兼ねて。 地域講習会の実施、デイライト、パトライト運動等 事故の話や交通安全についての話を市の職員に来てもらいビデオ等で。 交通安全教室・交通安全講話など町内の交通安全活動に参加 各種会合等でまず交通安全について話す。 自転車のマナー、老人の横断などのニュース等を町内会だよりの裏に掲載 スポーツ少年団の子どもたち親たちの事故防止 各学年への交通安全教室実施、自転車の乗り方・駐輪場指導等の日常活動 ホームルーム担任よりの日常的啓蒙指導等
家 庭	家族相互に声の掛け合い。朝出勤時など外出時は注意の声掛け。 自転車の運転前には「安全に」「気を付けて」と毎回声を掛け合う。 家族での話合いをしている。 家庭でニュース等に関心を持って話をしたりする。

4 自動車運転者の交通マナーについてどう思うか。

	記 述 内 容
走 行 中	スピードの出し過ぎ、割り込みや車間距離をよくとらない。 市街地でのスピードダウンが今イチである。 無謀な速度での走行 市道の幅員の狭い道路でのスピード違反 ルールを守らない走行 歩行者を保護しようとする精神が薄い 歩行者を優先させる。冬期間又は道中の狭い箇所では道路を開けて待つ。 運転しながら携帯電話を使用しているのをよく見る。 携帯・スマホをしながら運転している。 運転中のスマートフォン利用（午後5時前後の官庁通・高校通） スマホ・タバコの投げ捨て。 くわえたばこ 車間距離を開けるとすぐ前に入ってくる。 ウinkerを表示しないで割り込んでくる。 周りを見ない自分中心のドライバーが目につく。 個々人の意識が甘い。 無灯火 トラックの異常接近で「圧力」をかける、譲り合いが少ない。 大型車の運転マナー、モラルが欠如。（とにかく運転が乱暴） 他県と比較し、総体的に良い方だと思う。 滝川は割とマナーよし。道外車・急ぐ冷凍車問題あり。 スピードを出している車両をあまり見ない。割り込みもほとんどない。 マナーを守っている人が多いと思う。
交差点等	信号無視。赤信号への変わり際、変わった後の進入が多い。 信号が黄から赤に変わっても交差点に進入する。 急に曲がってくる。赤信号でも通ってくる。 突然ウinkerを上げ、右折等、ウinkerが遅い。 右左折時のウinkerの指示を曲がりながら付ける人が多い。 ウinkerを付けるのが遅い。 交差点でのスピード超過。信号無視。 交差点にすごいスピードで進入してくることがある。 滝川市は信号のない交差点が多く一時停止を守らない人が多い。 国道以外で一時停止の標識があっても徐行で通過が見られる。 確実な一時停止をしない。 一時停止を守らない。見ていると赤信号で侵入する。 横断歩道できちんと止まらない。
駐車（駐車 場含む。）	駐車禁止箇所での駐停車 歩行者を保護しようとする精神が薄い。交差点付近での駐車など。 逆車線での駐車（若年層・高齢者に多い）
そ の 他	老人のマナー 高齢者の運転は少し気になることがある。 女性が目立つ。 どこの市町村でも同じだと思う。 取締りが少ない。

19 交通安全についてお気づきの点がありましたらご記入ください。

	記 述 内 容
① 交通安全運動「旗の波」	注意の喚起としてとても良い運動だと思う。続けてほしい。 意識づけのため継続すべきだと思う。 意識高揚を図ることが必要。会社組織・個人参加に一工夫を。 高校生への協力依頼 事故防止のため意識付けは良い。歩行者向けの意識を高めることも同時に考えるべき。 毎日出ているがいつも同じ人ばかり。もう少しPRする必要があると思う。 現在国道12号で実施しているが他の場所でも実施できないか。滝新橋通など。 小学校周辺の交差点等地域町内会の協力を得て（実施場所を増やす） 町内会単位で行ってはどうか。 1日に大勢ではなく少数でも日にちを増やしてはどうか。 積極的に参加するよう呼び掛ける。 「継続は力」とはいえ、マンネリ化。高めの参加人数目標を設定。官民挙げての体制づくり 行っても平気で制限速度を超えて走行している。スピード表示を行ってはどうか。 旗の波を行った結果どのような効果があったのか明確になっていない。 年4回では効果について不明 あまり意味がないのでは？ 過去に旗の波をしている所へ車が突っ込み大変な事態になったことが2度あり。いつも不安。 旗の波運動は公共が行う場合は無料だが会社が行う場合は料金がかかるので普段はできない。
② 高齢者に対する交通安全対策	老人クラブの例会（集い）の場の活用 町内の老人会等で交通安全講話の実施 地域にて講習会を開くこと。 運転のやめどきを考えさせる講習会等の実施 勉強会を町内ですべき。 コミュニティルームの活用（地域公民館等）。町内会活動。 老人クラブ等はときどき受けているが社会（地域）全体にどう徹底するか。 町内会・老人クラブの会合等の際の講話、反射材の効果説明・配布 反射材を必ず着用させる。 反射材をもっと配布したり着用する教育 反射リストバンド 運転者側～適性検査を厳しく。歩行者側～指導強化 夜間の行動を少なくする。 不要に出歩かない。夕暮れ時は特に注意。 危険箇所をアンケート等で把握し、警察に取締りをしてもらう。 高齢者の（歩行者も運転者も）特徴を捉えた指導を。 特徴的な事故等をわかりやすく説明・指導等する。 個人差がかなり出てくるので対策も大変 高齢者の免許を発行しない。 ある年齢に達した場合、自動車教習所での実技試験が必要（※免許更新時） 高齢者の免許証返還は義務化しても良いと思う。 ある程度の年齢で免許証を返還すべき。家族からより効果があると思う。 どんな教育をしても無理なので高齢運転者を排除する仕組みを考えることが大切。 免許返納が一番。市で無料巡回バスを増便・免許返納の際の「免許返納金」制度を創設。 タクシー、バス利用の際の無料バス等の適用の拡充 車を運転しなくても住みよい地域環境づくり 意識を変えていただくしかない。 パンフレットなどでお知らせしたらよいと思う。 機会あるごとに呼び掛けることが大事だと思う。 目・耳・脚・身体全体の衰えを自覚させる。 機会あるごとに講話等を行う。 特に自転車に冬期間に乗っている人がいる。

③交通安全講習会	効果があると思う。あらゆる機会を利用して行うこと。効果があるのは小中学生と老人。 機会があれば反復して行つべき。高齢者はその場では理解するも数日後には忘れるのが特徴 体験型講習会の実施。シミュレーション（3D）体験も良いのでは。 具体的事故、事例等を広く取り入れる。 町内会単位で実施すべき。 短時間（10分程度）で参加しやすいものに。 市・警察・裁判所等の会議室で少人数でも実施してはどうか。 交通安全教育機関での積極的な講習が必要。 やってもいつしているかわからない。出席も義務化されていなければ関心を持たない。 マンネリ化していてあまり効果的でないように思う。 講習会参加者をいかに増やすか。また、出ない方が事故に遭うのが多い。
④シートベルト・チャイルドシート着用徹底	後部座席のシートベルト着用義務の認識が薄い。CM等で周知。 なぜシートベルトが必要か（死亡事故を防ぐ）説明・理解させる。 社内でも着用ルールを作り、罰則等で着用の徹底を図る。 使用者の意識徹底 地域の運動として定着させる。町内・班内・隣家等 交通安全教室、講習会等での教育しかないのではないかと。 若い親はシートベルトをしている。中高年は孫を乗せるとき、していない人が多いと思う。 産前産後の健診で重要性和危険性について講習を行うべき。 子供が窮屈だと思わせないことがある。気を付けなければならない。 命の尊さについて指導する。 一般道より高速道路の方が着用率が高いと思うが、それは罰則規定の差があるからだと思う。 後席シートベルト着用が徹底されていない。街頭指導も必要。スピード取締ばかり目につく。 路上取締りの徹底指導がベスト 結構高価なので業者の協力と補助があればよい。 チャイルドシートを若い母親に無料で貸し出す（使わなくなった家庭から寄付してもらう）。 自己責任だと思う。
⑤自転車利用者対策	学校での指導徹底。特に通学路（中学校・高校） 当面小中学校での指導・教育の充実強化 学校・警察がしっかり指導。違反にはしっかり切符切る。 小・中・高での教育が必要 並んで走っている（特に学生）。学校での教育（自転車側の規則）中学・高校で 高校生のマナーはよくなってきていると思う。 通学路上等での地域住民の立会指導要望 各学校、職場などでの意識づけと、家庭での教育が不可欠。 昨年度の道路交通法の変更が浸透していない。これまでのルールと大きく違っているが、実態 との差を埋めるには、子供の頃からの継続的な指導を積み上げるしか手だてはないと思う。 高齢者の車道通行は危険が多すぎる。 これから冬期間特に高齢者が車道を走ることが増えるので注意を呼び掛けてほしい。 冬期間（降雪期）は利用しない。 信号や交通ルールの徹底（反射材等を貼る。中学生が坂を猛スピードで駆け降りる。危険） 警察による再度指導徹底、講習会の実施 警察官による実際の指導が効果的。 自転車の通行を利用しやすいように道路を区別する。 交差点に自転車通行帯を増やす。 免許制を考えてみる必要があるのでは。 自転車免許証の作成と発行（以前くらし支援課に提案済み）
⑥その他	無灯火車には乗れないと決めて取締り。 携帯電話を操作しながらの歩行者が多く見受けられる。 市民を巻き込んだ交通安全PRを積極的に。 市内小中高生の一定学年（小5・中2・高2など）にアンケート調査を毎年実施 タミー実験のようにリアルにどのようになるか知ってもらうのが良い。 よくできているところを表彰することで目標・動機づけが重要と思う。 冬に信号が雪で1つも見えないところがある。危ないと思う。 冬の歩道の確保、冬の交差点の除雪、歩道坂道のアイスバーン対策